

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	63人	社会	63人	数学	64人
	理科	64人	英語	64人		

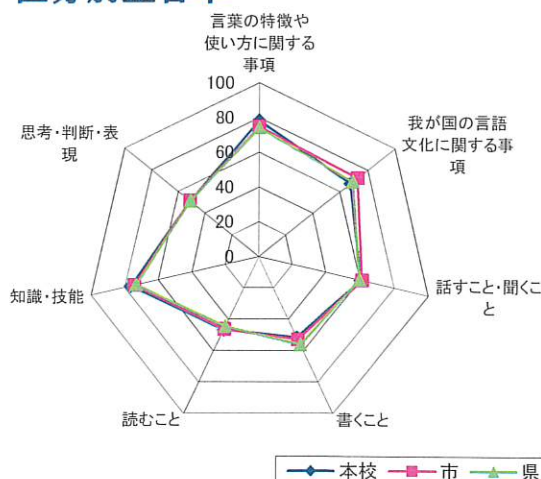
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.4	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	67.5	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	60.3	60.9	59.5
	書くこと	51.6	52.8	56.2
	読むこと	46.6	46.2	44.5
観点	知識・技能	76.2	74.2	73.1
	思考・判断・表現	51.3	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

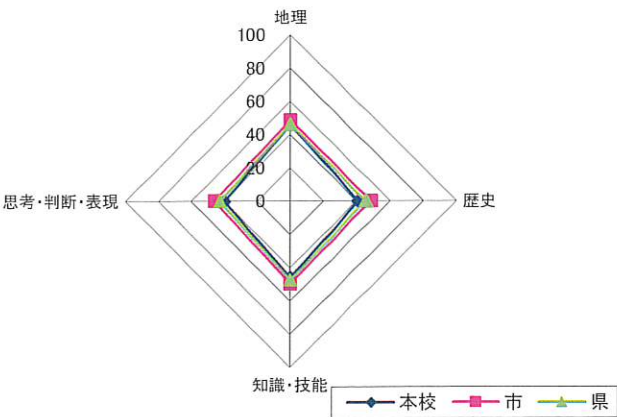
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を3.7ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きの問題では、全問市の平均を上回った。「汚れ(よごれ)」を読む問題の正答率は、100%だった。 ●漢字を書く問題では、小学校で学習した漢字(「層(そう)」「縮尺(しゅくしゃく)」)の無解答が2割を超えていた。	・漢字については、授業で行っている小テストの成果が出ている。今後も継続して行っていく。 ・小学校で学習した漢字についても、定期的に復習し、定着に努めたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を5ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は68.3%で、ほぼ市の平均と同じだった。 ●行書の問題では、三つの漢字に共通する行書の点画の変化として適するものを選ぶ問題の正答率が66.7%で、市の平均を約10%下回っている。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、古典の読解を進めていく上で必要になる知識なので、授業や問題演習の度に確認したり、授業で音読・暗唱を行ったりして定着を図っていく。 ・行書における点画や終筆の変化は、書写の単元で繰り返し学習し、定着させていきたい。しかし今回の問題は、「三つの漢字に共通している」という部分を読み取れずに解き、不正解となった事例も多いと考えられる。問題文を丁寧に読む習慣を身につけさせたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を0.6ポイント下回っている。 ○話し手が話した内容を説明する文として適するものを選ぶ問題では、正答率が87.3%で、市の平均を6%上回っている。 ●条件に従って話し合いの結論を書く記述式の問題では、正答率が27%で、市の平均を4.7%下回っている。	・「相手が伝えたいことは何なのか」と考えながら話を聞く姿勢を今後も育てていきたい。 ・記述式の問題に対する苦手意識もあるが、「条件に従って書く」際、条件をよく理解せずに解答していることも考えられる。指示された条件や答え方に合う記述ができるよう、授業でも問題演習を行いたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回っている。 ○指定された長さで文章を書くことについては、正答率が58.7%で、市の平均を0.7%上回っている。 ●二つのグラフから読み取った内容を書くことについては、正答率が50.8%で、市の平均を4.5%下回っている。	・字数制限を満たし、段落分けした文章を書くことはできる。 ・図表やグラフから読み取った内容を書く問題については、モデルとなる型や文章を提示し、それをういて生徒自身が文章を書く演習を行っていきたい。 ・自分の考えについて根拠を明確に書く問題については、書いた文章を生徒同士で批評し合うなどして、自分の文章を見直したり書き直したりする練習を行っていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○比喩表現を用いた文の例として適したものを選ぶ問題では、正答率が77.8%で、市の平均を9.5%上回っている。 ●登場人物の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題では、正答率が3.2%だった。また、無解答の割合が46%で、本調査では一番高かった。	・比喩表現については、1年時には詩、2年時には短歌の単元で表現技法の一つとして学習しており、定着が見られる。 ・文学的文章については、登場人物の言動や情景描写を根拠に、心情を読み取る力は身に付いてきている。自分の言葉として正しく使える、気持ちを表す言葉の語彙を増やすなどの指導を継続し、より深い読み取りができるようにしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	45.9	48.6	46.2
	歴史	41.2	48.3	45.3
観点	知識・技能	46.0	49.8	47.5
	思考・判断・表現	39.8	46.1	42.7



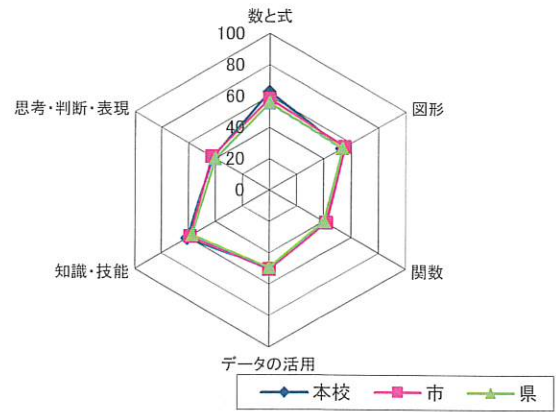
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、市の平均を2.7ポイント下回っている。 ○資料から読み取れることをまとめたメモの3つの空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものを選ぶ+D21:Q23問題では、11.7ポイント、資料から読み取れるリビアの輸出の特徴を記述する問題では、7.9ポイント市の平均を上回っている。 ●高山気候の雨温図と農業についての説明文の組み合わせとして正しいものを選ぶ問題では、6.5ポイント、気候の特色を示したチャート図中の区分のうち、地中海性気候が位置する部分として正しいものを選ぶ問題では、7.7ポイント、市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・資料から読み取れることをまとめたり、話し合いなどを通してそこから特徴や課題を導き出す指導を今後も継続していく。 ・世界の気候については、雨温図と各気候の特色、地理的位置を関連付けてとらえる力が不足している。まずは、基礎的な知識の習得を優先し、小テストで知識の定着を図る。また、多角的に考察していく訓練を積み重ねていくことで、思考力の醸成を図る。
歴史	平均正答率は、市の平均を3.8ポイント下回っている。 ○縄文時代の人々の生活の特色について述べた文の中で誤っているものを選ぶ問題では、5.3ポイント、市の平均を上回っている。 ●縄文時代の出土品とその説明文の組み合わせとして正しいものを選ぶ問題では、17.7ポイント、資料で示された法令の名称を書く問題では、14.6ポイント、市の平均を下回っている。	・調べ学習や動画などを活用し、歴史的事象への興味・関心を高めていく機会を今後も継続していく。 ・基礎的な知識の習得が不十分な生徒が多い。基礎的な知識の習得のために小テストや学習方法など必要な手立てを今後も授業の中で示していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.8	58.2	55.5
	図形	53.4	55.1	53.5
	関数	41.5	41.9	40.2
	データの活用	49.4	50.5	49.4
観点	知識・技能	60.9	58.8	57.3
	思考・判断・表現	42.1	42.7	40.3



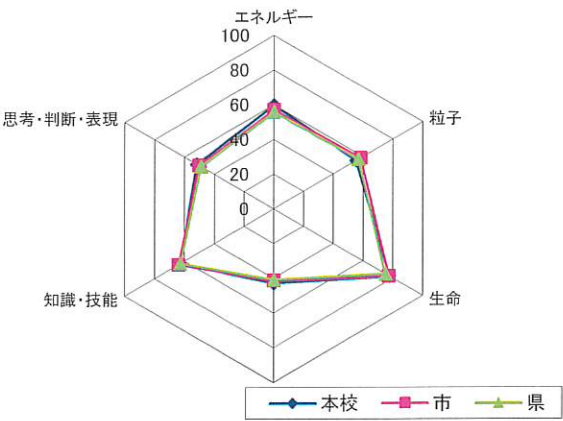
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均から4.6ポイント、県平均からは7.3ポイント上回っている。 ○基礎的な計算演習については、2問以外すべて市や県の平均を上回った。基礎的な計算の演習時間を授業の最初に取り入れている成果である。 ●1次方程式の立式や図から式に変換する問題が平均から大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算演習を今後も授業の最初に行い、確認していく。また、連立方程式の利用などの式を立てたとき、「この式はどのようにして立式したのか」についてクラス全体で共有したり、説明し合ったりするなどしていく。
図形	市の平均から1.7ポイント、県平均からは0.1ポイント下回っている。 ○作図や円柱と円錐の体積の関係の問題で平均を上回っている。 ●扇形の弧の長さの公式をもとにした問題の正答率が平均から約10ポイント下回った。	・公式の確認も大切だが、授業の中で「なぜその公式が成り立つのか」を言語活動を交えながら考えさせていく。また、扇形は、半径が同じ円の面積や円周の公式と比較させて角度の部分だけ違うことに気づかせたい。
関数	市の平均から0.4ポイント下回り、県平均からは1.3ポイント上回っている。 ○式を考えたり、正しいグラフを選択したりする基礎的な問題は平均を上回った。 ●12-1の「表をもとにグラフをかく問題」の正答率が4.7ポイントと市や県の平均を大きく下回った。	・一次関数の授業では表や式、グラフをそれぞれ関連付けて変化の割合や切片がグラフや表のどこに現れているかなどを確認していく。また、単にグラフをかく問題と文章題で日常の場面で関数と考えるグラフをかく場合で範囲を意識しなければならないことを指導していく。
データの活用	市の平均から1.1ポイント下回り、県の平均とは同じ正答率であった。 ○代表値などの言葉の意味に関しては理解していることが読み取れる。 ●15-2の「データの傾向を相対度数を使って説明する問題」での無回答率が約半数になっていた。	・データの活用の分野では、代表値やヒストグラム、相対度数をもとにデータの傾向を読み取ったり、批判的に考察することが重要である。言葉の意味だけでなく、題材を工夫しながらグラフを比較・検討したり、自分の考えを筋道立てて伝えるためにどのようなデータを活用したらいいのかを考えたりする時間を授業で設け、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	59.8	57.0	55.7
	粒子	55.6	58.6	56.9
	生命	77.9	77.5	75.2
	地球	42.7	41.4	40.9
観点	知識・技能	63.0	64.1	62.8
	思考・判断・表現	51.6	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

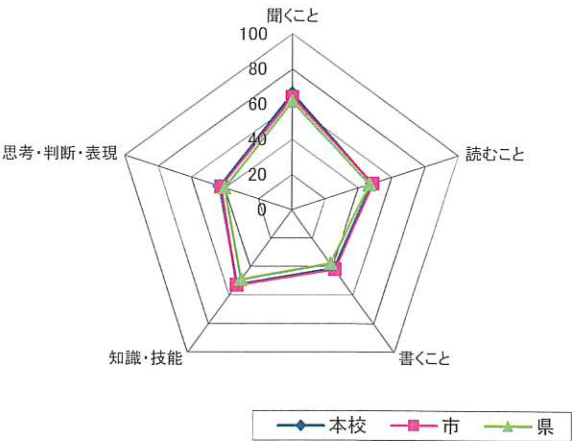
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ○全体を通して基本的な問題に対する正答率が高い。鏡に映った像が見える点を選んだり、光の反射の道すじを作図する問題の正答率は市の平均を7ポイント以上上回っている。 ●音の速さを使って音源までの距離を求める問題では、市の平均を8ポイント下回り、無回答率も高い。	・方眼用紙や方眼黒板を使った作図練習の成果が出ている。今後も繰り返し作図の練習を続けていく。 ・与えられた物理量が何を意味するのか、他の物理量と比較して関連付けて考えることができていない。概念形成の段階で丁寧に説明し、単位に注目させながら考えさせ、計算練習を行っていきたい。
粒子	平均正答率は、市の平均を3.0ポイント下回っている。 ○ガスバーナーの操作に関する問題や、質量パーセント濃度を求める式を求める問題では、市の平均を3ポイント上回っている。 ●再結晶で現れた物質と質量を選ぶ問題や、酸素を発生させる方法を選ぶ問題の正答率は、市の平均を大きく下回っている。	・ドリル学習を繰り返し行っているため、基本的な内容について理解できている。 ・実験の機会が少なかったため、実験の技能や試薬、発生する気体などの定着度が低い。授業の中で積極的に実験を行い、経験的学習の機会を増やしていく。
生命	平均正答率は、市の平均と同等である。 ○名称を答える問題や分類される植物や動物を選ぶ問題の正答率は、市の平均を3ポイント上回っている。 ●動物のからだの特徴から、利点を考える問題の正答率は、市の平均を11ポイント下回っている。	・ドリル学習を繰り返し行っているため、基本的な内容への理解度が高い。 ・生物のもっている特徴から、利点や理由を考える観察力や思考力が育っていない。日ごろの実験の中で着眼点を提示し、理由や利点をよく考えさせる活動を取り入れていきたい。
地球	平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ○基本的な問題や堆積した時期を選んだり、柱状図を選ぶ問題の正答率は市の平均を上回っている。 ●石灰岩の性質を選ぶ問題の正答率は、市の平均を2ポイント下回っていた。	・本校の立地が自然豊かで、生活体験に非常に恵まれており、身近な自然に対する関心が高い。日ごろから興味関心をはぐむ声かけを大切にしていく。 ・自然豊かな立地を生かし、素材を準備し積極的に実験を行い、経験的学習の機会を増やしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.2	64.0	61.6
	読むこと	48.1	48.4	46.6
	書くこと	41.1	42.0	37.8
観点	知識・技能	52.6	52.9	48.9
	思考・判断・表現	43.0	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均に比べると2.2ポイント上回っている。 ○絵を適切に表している英文を選ぶ問題や英文の概要を聞き取る問題では、どれも市の平均正答率より上回っている。授業の中で要点や概要を聞き取らせる機会を設けている成果だと思われる。 ●短い対話文を聞いて最後の応答部分を答える問題では、平均正答率が市の平均よりも低く、課題が見られる。+D22:Q23J24D22:Q24D22:Q24	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ある程度まとまりのある英文を目的をもたせて聞かせ、要点や概要を聞き取る機会を今後も確保していく。 ・口頭で単語を練習する活動を通して、語彙力を高めていく。 ・デジタル教科書を活用して、自然な英語の音に慣れさせる。 ・教師やALTの small talk や生徒同士である題材について話す活動などの英語でのやり取りを継続して行い、聞く力を高める。また、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができるようにしていく。
読むこと	平均正答率は市の平均よりも0.3ポイント低い。 ○英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ問題では、市の平均よりも0.8ポイント、県の平均よりも3.2ポイント上回っている。 ●英文を読んで概要を理解し英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題では、市よりも0.7ポイント、県より1.8ポイント下回った。	・今後も大まかな内容や要点がつかめたかどうかを確認するTFテストやQ&A活動を行っていく。 ・基本的な単語や基本文の定着を図り、正しく情報を読み取る力を高めていく。 ・語彙力増強の帯活動で使用している単語リストを、自分の力に合わせて活用しながら、自分の力で長文を読み取っていく活動を今後も継続していく。
書くこと	平均正答率は市の平均よりも0.9ポイント下回っている。 ○与えられた情報に基づいて、三人称単数現在形の一般動詞の肯定文を正確に書く問題では、市の平均よりも11.7ポイント上回っている。 ●現在進行形の英文を正しい語順で書く問題では、市の平均より11.0ポイント下回っている。	・授業の最初に単語や基本文の小テストを実施し、重要語句や基本文の練習を家庭学習に位置づけ、語彙力・表現力を高めていく。 ・既習の語句や文法を繰り返し使う機会や書く機会を設けて、基礎・基本の定着を図る。 ・まとまりのある英文を書かせる問題において無回答率が、問題番号11-2では39.1ポイント、11-3では42.2ポイントという高い割合となっている。日ごろから自分の考えや気持ちを書いたり、場面や状況を把握して英文を書く活動を多く取り入れたりして、興味をもって英文を書く経験をさせていきたい。

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と回答した生徒の割合は(34.9%)で市の結果より9ポイント高い。授業の復習など、基本的な家庭学習を身につけていると考えている生徒が多い。生徒一人ひとりが自ら学ぼうとする意欲の育成に努めていた成果が、現れている。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」と回答した生徒の割合は(46.0%)で市の結果より6ポイント高い。学校全体で自分の力でやり遂げる体験や場の設定により自己肯定感を高める支援の充実を図っている成果であると考えられる。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていると思う。」では、肯定的に回答した生徒が7割強、市の結果より20ポイント以上高く、話し合い活動として認識が高い。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」と回答した生徒が市の結果より10%以上高い回答となっている点は、授業の中で発表の場面を効果的に設定しているという結果と考えられる。

●読書の時間について、全く読書をしない生徒の割合が42.9%と市の結果より12ポイント下回っており、十分とはいえない状況である。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」には、いいえと回答した生徒が3分の1近くとなっており、習熟度別学習による、きめ細かな指導の充実を図り、粘り強く学習できるような課題の編成に努めていく。

●自主的に学習に取り組む意欲が育っているため、学習内容や方法を工夫すると、さらに学力向上につながると考えられる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に取得させ、自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実	・授業の目標や本時のねらいを焦点化した「わかる授業」の推進 ・協働的な学びの時間を確保するなど対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・本時のねらいがうまく生徒に伝わっていないことが見受けられた。具体的なねらいをノートに書かせ、ふりかえりを通して生徒の「わかった」を育てていく。 ・授業において言語活動がよく設定されており、言語活動を行っているという認識は市より10ポイント以上高い。話し合う活動によって、考えを深めたり広げたりできている生徒は半数以上いる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・疑問などについて追究しようとする意欲は低い方である。 ・自分の考えを書く、伝える、日常生活と照らし合わせて考えるなどの思考・判断・表現において、より積極性が望まれる。	学習課題を自分事としてとらえ、自分の考えや意見をしっかりとらせる工夫	・生徒の考えを引き出し、考えを深められるよう発問を吟味する。 ・生徒が自分の意見や考えを明らかにできるような手立てを工夫する。